

## Rotary Leadership Institute (RLI) Part II

### プログラム概要

分科会（セッション）      セッションの課題と概要      DL・担当者

#### 1. 効果的な会合の持ち方とリーダーシップ (Club Management - How to run Meetings)

\*目的： クラブに於ける各種会合、例会の目的とその重要性について。

会員の参加意識高揚とクラブの全体の活性化について。

#### 2. 職業奉仕、倫理観の高揚と実践 (Vocational Service and Practical Ethics)

\*目的： 職業奉仕とは何か、ロータリーの基本理念と職業奉仕の実践。

「決議 23-34」、クラブと個人の職業奉仕について。

#### 3. 会員組織と新会員勧誘 (その2・応用編) (Membership Development and Recruitment)

\*目的： 新会員勧誘の具体的手法、新会員セミナー、新会員によるクラブの活性化、クラブ毎の課題と効果的な会員増強を考える。

(注) Part I のプログラムと重複しない内容とする。

#### 4. ロータリー財団 (その2・応用編) (Rotary Foundation Part 2)

\*目的： ロータリー財団の人道的、教育的、ポリオなどのプログラム、寄付金（年次寄付、恒久基金、使途指定）とシェア・システム。

(注) Part I のプログラムと重複しない内容とする。

#### 5. 米山記念奨学事業 (その2・応用編) (Special Program in Japan- Part 2)

\*目的： 寄付金と税制上の優遇措置プログラム、奨学生数の推移、学友会、在日留学生の現状と今後の政策について。

(注) Part I のプログラムと重複しない内容とする。

#### 6. クラブ運営の分析と評価 (Analysis of the Rotary Club)

\*目的： 自分の所属しているクラブの運営システム、奉仕プロジェクト、活動状況などについて、会員としての理解度のチェックをします。

(注) 「クラブ評価表」は、合計 100 項を超える質問から構成されており、セミナー参加者は、前以ってそれらを回答し、提出する事とします。セミナー会場では、その内容と分析結果を討議します。

## RLI Part II セッション1 「効果的な会合の持ち方とリーダーシップ」

### (クラブの各委員会活動とその活性化の重要性)

#### 「本セッションの目的」

国際ロータリーは、100年の節目を迎え、いくつかの課題を抱えています。中でも、会員減少に歯止めがかからない状況はロータリーの存続基盤をゆさぶる大きな課題です。会員減少の背景には「クラブ活性化」の問題があり、これは同時に、クラブ各委員会活動の問題でもあると考えます。RIはDLPに続きCLPの導入を推奨し、より簡素化された委員会構成で、効果的なクラブ造りを提唱していますが、このセッションでは、小規模でも出来る、「質」と「量」共に優れた、効果的な奉仕活動を可能にする委員会構成とその活動に関して討議することを目的とします。

#### 「主な質問事項」

1. まず、クラブの組織構成です。クラブ・リーダーシップ・プラン (CLP) の目的は、「効果的なクラブ管理の枠組みを提供する事により、ロータリークラブの強化を図ること」としています。
  - (1)効果的なクラブとは、どのようなクラブを言うのでしょうか？
  - (2)またその要素とは何を言うのでしょうか？
2. クラブの会員数に対し委員会構成は、活動に無理がない形が要求されると考えます。
  - (1)あなたのクラブでは、委員会構成が適切（クラブに合った）形になっていますか？
  - (2)それぞれの会員が積極的に委員会活動に参加していますか？
3.
  - (1)クラブの委員会を活性化させるために、会員数に合わせ、従来の委員会構成に見直しが行われていますか？
  - (2)委員会は活動に応じて柔軟に変えられる形式になっていますか？
  - (3)プロジェクトが決まると、委員会の中で人員編成が再編出来る仕組みになっていますか？
4. 効果的なクラブ造りに「長期的なビジョン」が必要と考えます。
  - (1)クラブには、みんなが理解している「長期ビジョン」がありますか？
  - (2)毎年踏襲するプログラムで、マンネリ化していませんか？
  - (3)マンネリ化を防ぎ、委員会を活性化するにはどうすれば良いと思いますか？
5. 効果的な奉仕活動のために、
  - (1)地域内の他の団体などとの共同プロジェクトは実施されていますか？
  - (2)奉仕活動に、他の団体との相互補完は可能でしょうか？
6. RIの存在も、地区組織も基本的には「クラブ支援」です。
  - (1)しかし、委員会の簡素化で、地区の組織との整合性に問題が生じませんか？
  - (2)その場合、どのような対応をすればよいと考えますか？

## RLI Part II セッション2 「職業奉仕、倫理観の高揚と実践」

### (職業奉仕の理念と実践)

#### 「本セッションの目的」

ロータリーには「綱領」があり、その第2項に、事業および専門業務の道徳的水準を高めること、あらゆる有用な業務は尊重されるべきという認識を深める事、そしてロータリアン各自が業務を通じて社会に奉仕するためにその業務を品位あらしめること、とあります。そして、「四大奉仕部門」にも、ロータリークラブの活動の哲学的および実践的な基準として、同様なことが述べられています。

「ロータリーに於ける職業奉仕」とは、あらゆる職業に携る中で、奉仕の理想を生かしていくことをロータリーが育成、支援する方法と理解致します。ここでは、職業奉仕とは、「何を、どう実践するのか？」討議を通して学ぶことを目的とします。

#### 「主な質問事項」

1. まず、冒頭に伺います。一般的に「職業奉仕はわかりにくい」と言われます。何故でしょうか？
2. 職業奉仕に関連する声明の中に、「あらゆる職業において最も高度の道徳的水準を守り、推進すること」とあります。この言葉が本当に意味するものは何でしょうか？
3. 同様に、「あらゆる職業の社会に対する価値を認めること」とあります。この言葉の意味は何を言っているのでしょうか？
4. また、「自己の職業上の手腕（プロフェッション）を社会の問題やニーズに役立てること」とあります。実際にどのようなケースを言うのでしょうか？ 実際にあなたは実践していますか？
5. さて、奉仕活動の実践に、最も重要な事は何でしょうか？ 絶えず心がけなければならない事とは何でしょうか？
6. 職業奉仕とは個人の奉仕活動を進めることでしょうか？ クラブ単位で行う職業奉仕がありますか？ 職業奉仕はクラブの奉仕活動とは無関係ですか？

## RLI Part II セッション3 「会員組織と新会員勧誘」

## 「本セッションの目的」

効果的なクラブの創造は、従来からの会員を維持すると同時に、新会員の補充、増強により、楽しいクラブ造りに励む事がベースと考えます。日本における会員減少が極めて危機的な状況にあることを認識し、クラブを挙げて、全会員がそれぞれの立場で会員増強に精力的に取り組む事が肝心でしょう。このセッションでは、新会員勧誘の具体的な手法、新会員セミナー、新会員によるクラブの活性化、それぞれのクラブが抱える課題と効果的な会員増強について討議をします。

## 「主な質問事項」

1. Part I では、前期末までの会員数の減少傾向に関して報告、討議がなされたと理解しています。先ず、出席者から今期、現在までの会員増強の経過について伺います。今期、増強の成果は如何でしたか？
2. この会員減少傾向は、単に日本の問題だけではありません。RI 会長が示された会員増強目標（配布資料）について意見はありますか？ これはクラブ全体の課題と理解していますが、基本的にどんな取り組みがなされていますか？
3. それぞれ出席の方から、各クラブの増強計画策定の方法とその進行状況について伺います。又、その計画の進行管理はどうされていますか？
4. 会員増強に貢献された方への顕彰はどうしていますか？（2750 地区ではスポンサーピンが贈呈されています。）
5. 女性会員の受け入れ状況について伺います。女性会員ゼロのところはありますか？有るとすれば、その背景は何でしょうか？（既に、一般では、女性、男性の区別をする事がおかしいとの意見もあります。）
6. 地区内には 100 名を越える大きなクラブ、30 名に満たない小規模クラブがあります。基本的には、そのクラブが意図する「望ましいクラブ会員数」でしょう。クラブに、中期、長期的な会員増強計画がありますか？ そうした計画が、クラブ全体で話し合いされているのでしょうか？

## RLI Part II セッション4 「ロータリー財団（応用編）」

### （寄付金と補助金）

#### 「本セッションの目的」

ロータリー財団への寄付はどのような寄付があるのかを理解した上で、その貴重な寄付がどのように使われているのかをケーススタディの手法で参加者の皆さんに実際に考えていただきます。寄付金と補助金の両方を理解していただくことにより、ロータリー財団が寄付を大切に考え、また、いかに有効に使うことを第一に考えているかを理解していただきます。

#### 「主な質問事項」

1. ロータリー財団への寄付には、どのようなものがあるかご存知ですか？  
→寄付の方法と、それぞれの寄付のシステムを知ることによって、自分たちの寄付がどのように扱われているのかを理解していただきます。

2. 次の設問に答えてください。

設問1. 年次寄付に下記の金額が集まりました。

3年後にシェア・システムによって地区にDDFとして配分される金額は、いくらでしょうか？

年次寄付 合計金額 583,678 ドル

設問2. DDFとして地区に下記の金額が配分されました。

この金額で、今年度の財団奨学生は何名海外派遣できるでしょうか。

DDFの金額 284,700 ドル

設問3. 私たちのクラブは、国際奉仕のプロジェクトを行うことになりました。

クラブからの拠出金も下記の金額が準備でき、地区のWCSからの補助金も下記の金額をいただけることになり、MGを申請したいと思いますが、WFから補助金はいくら支給されるでしょうか。

クラブ拠出金 6,000 ドル

地区WCSの補助金 4,000 ドル

→3つの設問を通じて、シェア・システム、MG（マッチンググラント）を理解していただきます。その寄付がどのように分配され、どのような形でプロジェクトに有効利用されているかを具体的な事例で考える場をもちます。

#### 「セッションのまとめ」

ロータリー財団では、「寄付をする」と「有効に使う」とは、車の両輪であることを理解していただきます。DSGやMGをどのように使えば良いかを理解することによって、今後、自分のクラブでも実際のプロジェクトの立案、実行に役立てることのできる力をつけていただきます。

## RLI Part II セッション5 「米山記念奨学事業」

## (米山記念奨学事業の現状と事業の発展)

## 「本セッションの目的」

Part I でロータリー米山記念奨学事業の基本について考え、参加者の皆さまからは、本事業について肯定的に受け止めて頂きました。米山記念奨学事業は、日本の34地区による「多地区合同奉仕活動」として全国のロータリークラブ、地区、米山記念奨学会が活動を支えています。クラブ、地区によって、その取り組み方に大きな違いがあります。各レベルにおいて将来のリーダーとして、現状において事業が抱える問題点を考え、更にもどのように事業を発展させ、推進するかを考察することがPart IIの本セッションの目的であり、事業の将来を考える応用編です。

## 「主な質問事項」

1. 米山記念奨学生の選考は、地区選考委員会が行い、米山記念奨学会の選考委員会で最終決定がなされます。当地区では、1999 学年度から、指定大学による大学推薦制度を採用し、3 年間の試行期間を経て、全地区で採用することになりました。その結果コミュニケーション能力とともに、「優秀性」が評価されるようになりました。国籍の偏りも含めて選考の問題点について考えてください。
2. 奨学金の原資は100%ロータリアンの寄付で賄われています。特別寄付金には税制上の優遇措置があります。また、個人寄付額と地区寄付総額によって、地区の採用学生数が決められます。また、表彰制度もあり、これ等を理解した上で、有効な寄付増進の方策について考えをお述べください。
3. 当地区では、この数年米山記念奨学生と学友に対する、年2度の懇親会や、学友定例会を毎月行い、ロータリアンを含めた交流と情報交換行っており、奨学生・学友のロータリーへの永続的な関わりを維持し、将来のロータリアンとして、日本語を共通語とする国際的なネットワーク構築を志向しています。本事業は学資や生活費の支援だけではなく、ロータリーの奉仕理念を奨学生・学友に継承してもらうことが必要と思われます。その方策について考えてください。
4. 本事業は特定公益増進法人として文科省の認可を受け、法的に制約されている部分もありますが、そのような制約にかかわることなく、自由な発想で本事業の未来はどうあるべきか、どうなることが望ましいか、お考えください。

## RLI Part II セッション6 「クラブ運営の分析と評価」

### (Analyzing Your Rotary Club)

#### 「本セッションの目的」

このセッションの目的は、クラブの現状批判ではありません。現在、自分が所属しているクラブについて、種々の角度から先ず分析、客観的に評価し、その結果から、更に向上させる為には如何にすべきかを学ぶものです。評価対象は、大まかに、下記の5項目に関して、受講者の理解を基本として三者択一で選択します。

1. クラブ全体について
2. 会員とその活動状況について
3. ロータリー財団について
4. 奉仕プロジェクトについて
5. ロータリーの広報活動について

※ 合計 100 項を超える質問表が用意されています。受講者は討議に入る前に、これら質問表を完成し、それらを持参した上で、クラスルームに入ります。そして、自己の評価結果を踏まえて、クラブの現状と自分の理解度を評価、査定、向上案を討議します。

#### 「主な質問事項」

1. リーダーは、項目ごとに、どの位の出席者が自信を持って回答できたかを質問します。「クラブ全体」を例に取りますと理事会の開催頻度、会員名簿の有無、収支報告から会報、クラブ協議会の開催状況、会員全体の出席状況にまで及びます。これらの評価次第で、クラブの活性化が測れますが、同時に、回答者自身の理解度、クラブ活動への参加状況も自己評価出来ます。
2. 同様に「ロータリー財団」についても、クラブ全体での財団活動、寄付金の状況、3年後に寄付金がクラブに還元される事や、マッチング・グラントなど、知識全般について、自分の所属するクラブ全体、自分自身の参加状況や関連知識をチェック出来ます。
3. こうした自己のクラブ評価、ロータリアンとしての自己評価を通して、何が欠けているのか、どうしたら、そうした欠けている部分を補う事が出来るかを認識していただく事、更に、それら欠如している部分をどうカバーするかを討議します。
4. 討議は、クラブに何がかけているか?の指摘ではありません。受講者が、クラブをどの位理解しており、自分が会員として、如何に参加、活動しなければならないかを認識、対応策まで考える機会を体得することです。どのサブジェクトに照準を合わせ、討議するかはリーダーの裁量でよいと考えます。